

## 令和8年産主食用米の生産面積目安及び生産計画方針について

### 1. 府中市の令和7年産主食用米の作付実績（令和8年1月現在）

府中市での令和7年産主食用米の作付実績（令和8年1月現在）は広島県から設定された生産目安を下回りました。

	全体		基準単収
換算数量(kg)	目安	2,109,000	529kg/10a
	実績	2,080,287	
	差引	28,713	
面積(m <sup>2</sup> )	目安	3,990,000	
	実績	3,932,490	
	差引	57,510	

### 2. 令和8年産主食用米の生産数量目安及び生産面積目安（確定値）について

広島県から府中市に提示された令和8年産主食用米の生産目安（確定値）は、下記のとおりです。

生産目安

（ ）は前年

生産数量目安	生産面積目安
2,095,000 kg (2,106,000)	3,970,000 m <sup>2</sup> (3,990,000)

※府中市の主食用米の基準単収 528 kg /10 a

### 3. 令和8年産の生産計画方針

国の生産数量目標の配分廃止から9年目を迎え、引き続き広島県の代替措置として県域の主食用米の生産数量目安が提示されました。

広島県農業再生協議会の広島県主食用米の生産及び需要動向では、県内の主食用米作付面積は年々減少していましたが、令和7年産は令和6年産に対して100ha増加しました。県産米の生産量は県民の米の消費量を下回った状況が続いており、令和7年産は作付面積や単収の増加により生産量が増加したものの、令和のコメ騒動により、価格上昇に伴う県産米の県外への流出、比較的安価な県外産米及び外国産米の流入が増加しています。

令和8年産の主食用米については、需給バランスを保ちながら価格の急騰や急落を防ぐとともに、農家の収入を安定させる、消費者へ安定した価格の米を供給するなど、需要に応じた生産が求められています。

広島県では県民の消費量に対して、安定的に供給するための生産体制を構築していくことが求められており、広島県産米は家庭用、業務用ともに需要の増加が見込まれます。そのため、それらのニーズに応じた作付を行うとともに、単収増加を目指します。

令和8年産の非主食用米については、広島県農業再生協議会が示す需要動向では、WCS用稲、飼料用米、加工用米、米粉用米において令和7年産と比べて需要の増加が見込まれています。

主食用米とのバランスを図りつつ、引き続き販売先のニーズを把握し、需要に応じた生産に取り組みます。